

## 不登校生徒の居場所づくり（支援室対応）について

### 【昭島市立 A 学校の取組】

#### 不登校生徒の状況

本校では、集団への不安や生活リズムの不調等の理由で、教室で過ごすことが難しい生徒に対して、学習の機会を保障するための支援室を設置している。現在は 11 人の生徒が登録し、4 人の支援員が交代で学習支援をしながら、生徒が自ら課題を設定し、目的向かって努力する場としている。

#### 具体的な取組

【支援室の環境整備】生活リズムや学習習慣の確立・集団への適応のため、時間や学習の仕方・他者への配慮など、支援室としてのルールをつくり、生徒と保護者に説明し・掲示している。生徒の実態や学校体制に応じ、特別支援委員会や学年会での検討を経てルールの修正を随時実施している。



【組織としての支援】運動会や合唱コンクール等の行事や定期考査の際に、生徒が参加しやすいよう、個々の状態に応じた対応を特別支援委員会で検討し、各分掌と調整して全校体制で実施している。また、週に 1 回開催する特別支援委員会で情報共有し、必要な場合は関係諸機関につなげている。



【学習支援と S C 面談】支援員が付き、時間割を掲示し、原則オンラインでの学習を各自取り組んでいる。個々の状態をみながら、教室での授業参加も促している。また週に 1 回の S C 来校日には、面談を定期的に入れるように調整している。



【情報共有】個人ファイルに一週間の目標と振り返りを記入し、担任と保護者が共有している。また、支援員が記入したファイルの供覧や、特別支援教育コーディネーターとの連絡を毎日行い、支援員と教員間の情報共有や指導の方向性の確認を行っている。

#### 成果

支援室を利用しながら教室に入ったり、短時間だが登校できるようになったりした生徒が 5 人いる。また、行事や定期考査のみ参加できる生徒もいる。そして、職員間での情報共有、S C や S S W 等関係諸機関との連携ができています。

#### 課題

支援室登録している登校できない生徒への支援や、教員間での支援室利用の仕方の意見の差異を調整することが今後の課題である。

## 不登校生徒が学校とつながりをもちやすくする具体的な 方策について 【昭島市立 B 中学校の取組】

### 不登校生徒の状況

全体の約 1 割が不登校にあり、小学校の頃からの長期欠席傾向が解消されずに入学する生徒が不登校になることが多い。起立性調節障害等心身の不調を訴えることや、登校に対する家庭の協力が得られにくいといったケースがある。

### 具体的な取組

#### 温かい雰囲気のある学級づくり

- ・ 学校行事の際に  
お互いを尊重し、  
活動を承認し合  
う掲示物を作成  
する等して、日  
頃から互いを認  
め合う心を醸成する。
- ・ 道徳科の授業で互いのよさを見つめ、  
思いやりの心を育んだ。



#### 時間を決めた放課後週 1 日登校

- ・ 週 1 日、曜日を決めて、放課後の時間  
に計画的に登校を促す。他の生徒と会  
わない時間に登校できる場を作るこ  
とで、安心感をもって登校できるよう配  
慮した。

#### オンラインの効果的な活用

- ・ タブレット端末を  
使い放課後の時間  
に定期的に担任が  
オンライン面談を  
実施した。



#### 登校しやすい機会に登校を促す

- ・ 進級写真の撮影、体育祭練習、体育祭  
当日、校外学習、球技大会、音楽祭、  
移動教室等の生徒が登校しやすい場  
面に登校を促していく。
- ・ 体育祭や音楽祭では、競技や発表に参  
加できない場合も、見学や参観のみの  
出席も可とした。

#### 関係機関との連携

- ・ 特別支援教室や S C、教育支援室や子  
ども家庭支援センター等の機関と連  
携し、様々な方向からの支援を検討し  
た。

### 成果

手探りの中、生徒が興味や安心感をもてる取組を実施することで、登校につながることができた。小さなステップを踏んでいくことで、継続的な登校ができている。

### 課題

未然防止はもちろんのこと、学校全体で速やかな情報連携を図り、初期対応を迅速に行うことが課題である。